

平成 23 年度京都府立久美浜高等学校学校経営計画(実施段階)

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校計画の重点 (短期経営目標)
<p>歴史と伝統を踏まえ、校訓「意欲、克己、創造」の精神を生かし、地域の期待に応える教育を推進する。</p> <p>1 生きる力の育成と進路実現</p> <p>2 総合学科及び小規模校の特色を生かした指導</p> <p>3 専門教育の充実</p> <p>4 教職員の指導力向上</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 朝読書の通年実施による遅刻者の減少と授業への円滑な移行</p> <p>(2) 研究授業への積極参加と授業改善</p> <p>(3) 生活実態調査など新機軸の取組と共感関係に基づく組織的な生徒指導体制の充実</p> <p>(4) 面接、ガイダンス、小論文などのきめの細かい個別指導による進路実現</p> <p>(5) カウンセリングや特別支援学校との連携の充実による教育相談の充実</p> <p>(6) 図書館活動の充実と貸出冊数の最多更新</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 生徒の実力や現状を踏まえた授業改善、基礎学力の充実と進路実現</p> <p>(2) 基本的な生活習慣、家庭学習の充実に受けた家庭との連携とPTA活動の活性化</p> <p>(3) 教育相談、特別支援の充実に向けた校内体制整備や教職員研修</p> <p>(4) 生徒の活躍を発信する出前授業やボランティア活動などによる生徒の地域社会参加の充実</p> <p>(5) HP、久美高だよりなど広報活動の充実</p>	<p>1 学力向上フロンティア事業を活用して、基礎力の充実と成績優秀者の学力伸長を進めるため、教材を精選し、授業改善を図る。</p> <p>2 教職員の連携を密にし、規律ある学習環境を確保するとともに家庭学習の定着を図る。</p> <p>3 あいさつ、身だしなみの改善を図り、学習や部活動の目標達成に向けて努力する雰囲気高める。</p> <p>4 生徒同士、生徒と教職員の間に共感関係を築き、週に一度の生活実態調査により、問題行動の抑止及び早期発見に努める。</p> <p>5 1人1人の生徒の進路上の課題の解決に向けて、保護者と連携しながら支援を行う。</p> <p>6 学力の充実、進路実現、部活動の充実、地域との連携のために組織体制を整備する。</p> <p>7 生徒の活躍をタイミングよく発信する広報を充実する。</p>

評価領域	重点目標(取組の重点課題)	具体的方策	評価		成果と課題
組織運営	諸会議の運営の工夫、事業推進や生徒の指導に係る時間の確保	部長会議の開催を月2回以上行うとともに内容の精選を図り、部長・職員会議の時間の短縮を図り、生徒の各種指導時間を確保する。 学力向上フロンティア校支援事業実施内容や方法の検討を月2回の部長会議で確認し、円滑な推進を図る。	B C	B B	今年度前半まで2回実施した。職員会議と説明等が重複しないよう心掛け、時間短縮を図った。事業は円滑に実施できなかった。内容の共通理解等整備が必要である。
家庭・地域との連携	家庭・地域との連携による家庭学習時間の増加やボランティア活動の活性化推進	家庭学習時間の増加を目指し、PTA進路指導委員会と連携し、「標語」等具体的目標づくりを行う。 ボランティア活動推進のため、校内体制を確立するとともに、積極的に地域に働きかけ、活動者数増加を図る。	B B	B B	進路指導委員と協議した。今後も目標設定に向け、連携を強めたい。 生徒の地域理解、地域の学校理解のためにも働きかけを強めたい。

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価		成果と課題
P T A活動	役員会、委員会活動の充実	役員会の出席率を上げ、進路指導部、生徒指導部からの協力を得ながら、委員会活動を行う。	B	B	B 仕事の都合上、役員会の出席率が100%ではなかった。進路指導部、生徒指導部との連携で進学講演会、千日会巡回指導を行った。 参加率が19%と、少なかった。
	地区懇談会の開催	各会場で、昨年を上回る参加人数で実施する。	C		
学校図書	読書意欲の喚起	朝読書や学習支援を意識した本の購入や特集を行い、実りある読書への誘導を図る。	B	B	B 昨年と比べると生徒一人あたりの読書量は減少したが、依然として丹後地域、府内の中では上位の図書利用があり、高い水準を維持している。 複数の教科と連携して資料収集に努め、万全の体制で授業支援ができた。個々の社会的参加を促す中で、昨年に引き続き、自ら読書感想画コンクールに応募（1名）した。
	資料情報提供の充実	公共図書館との連携により、資料の質・量ともに充実を図り、各種のコンクール、ボランティア等、社会参加の情報提供、支援に努める。	A	A	
広 報	久美高だよりの発行、学校情報メールの配信	久美高だよりを学校行事等、タムリーに発行する。 学校情報メールは、月末をベースに配信する。	A	A	B 学校行事等の実施に伴い、1・2学期を中心に久美高だよりを早めに発行した。 学校情報メールの配信は昨年より増やすことができた。 継続してホームページの更新を行ったが、部活動記録の更新を定期的に行うことができなかった。
	ホームページの更新	校内からの情報の提供を受け、継続して更新ができるように取り組む。	B	B	

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価		成果と課題
事務部	教員と連携した学力フロンティア事業の推進	経費執行を中心に教員と連携を図りながら事業に参画し、学校全体としての取組とする。	C	B	事業推進会議の立ち上がりが遅れたこともあり、当初からの参画ができなかったが、年度後半からは、予算の執行等について教員と連携を進め、改善が図れた。
	校舎耐震補強工事の円滑な実施	生徒の安全確保を第一とし、工事が円滑に進むよう、施工業者や校内教職員との調整を図る。	A	A	B 図書室をはじめ、職員室など多くの執務室を移転しながらの長期に渡る工事であったが、教職員の理解と協力を得て、工期内に終了することができた。 生徒や来校者に対しても、安全確保を優先的に配慮し、事故や大きな混乱もなかった。
教育課程	平成24年度入学生教育課程の編成	新学習指導要領における数学・理科の先行実施をふまえた教育課程を編成する。	A	B	B 本校の課題と25年度以降を見据えて教育課程を編成した。
学習指導	質の高い授業づくり	各種の研修や研究・公開授業、教科会議での交流などを通して授業改善を進めるとともに、生徒の学習意欲を喚起する。	B	B	B 教科の校外研修を実施するとともに、年間を通して学習時間調査を行い、指導に生かした。
	学力向上フロンティア事業の推進	推進委員会を中心に学力の充実に係わる各種取組を進める。	B	B	B 事業計画にあげていた取組以外にも新規事業を行った。
生徒指導	いじめ・窃盗を許さない学校作り	教職員がアンテナを高くすると共に、「今週の振り返り」を実施し、生徒の実態を早期発見し、早期指導をする。	C	B	C 校内での未解決の盗難が数件あったことは課題として残る。 教職員が同じ基準で指導に当たることができなかった。
	中身と共に外見でも勝負する学校作り	身だしなみ改善チケットを使っての効果の上がる指導をする。	C	C	
特別活動・部活動	部員数の増加、全国大会での優勝を目標	積極的な勧誘及び中学校との連携を強くする。	B	B	B カヌー部インターハイ準優勝。中学校運動部顧問との交流会を開催した。
	素晴らしい文化祭の実施	生徒の意識を高め、内容の検討や教師の指導方法の確立を目指す。	B	B	B 生徒会を中心に演劇のレベルアップを目指した取組を行った。
進路指導	生徒の希望進路実現のための個別指導	2年生全員面談・3年生就職希望者面談を実施する。 入退室のマナーを徹底する。	B	B	B 期限内に面談できない生徒があった。進学希望者への指導に不十分な部分があった。
	生徒が自ら進んで進路を考えるための働きかけ	進路マップの一層の活用を図る。 学年ごとの進路ガイダンスの充実を図る。	B	B	

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価		成果と課題
健康・ 安全教育	校内美化活動と環境美化の啓発	月ごとに掃除の重点項目を定め、校内美化に取り組む。	C	C	月ごとに重点項目を定めることができなかった。重点項目の統一ができなかった。
	教育相談会議(特別支援教育を含む)の充実	速やかに生徒の状況を把握し、スクールカウンセラー及び専門機関の援助を得た教育相談を行う。	A	A	B 特別支援教育とカウンセリングの校内研修を実施することができた。教員からスクールカウンセラーへの相談が増え、生徒への対応も充実させることができた。
人権教育	人権尊重を踏まえた教育活動の充実	各学年と連携し、各学年学期に1回の人権学習を実施する。	B	B	B 講演会を通じた人権学習を実施できたが、効果的な指導を迫及するという点では課題が残った。
	いじめの予防および早期発見	「今週の振り返り」を利用し、いじめ等の早期発見を目指す。	B	B	「今週の振り返り」によって生徒からの情報を活用できたが、アンケートの記入にマンネリ化が見られた。
1 年	高校生としての生活習慣の確立と学習習慣の形成	遅刻・欠席を減らす。 挨拶をする。 学習環境を整える。 補習等の利用促進、部活動の推進、自己課題を把握する。	B	B	学習時間の確保については改善の手立てが必要である。 教科書の持ち帰り、遅刻、欠席については指導による効果が得られた生徒もいる。 自己課題がそれぞれであり、自覚させるまでには至らなかった生徒もいる。
	感性の磨きと想像力や行動力の養成	さまざまな分野で活躍する人物などを知る。 感性に訴えかける人物などを通して想像力や行動力を養う。	B	B	B 朝読書の時間、「産業社会と人間」、LHR活動を通して、異分野を知る取組を行った。そこで感じたことを自分にどう活かすかについては課題である。
2 年	マナーの向上	規範意識を高める取組を増やし、特別指導を5件（5名）以内にする。 ----- あいさつ・身だしなみ指導を強化する。	B	B	特別指導が何件かあり、マナーや身だしなみ指導にも課題が残った。
	学力の向上	家庭学習・学習習慣を確立させ、評定平均値を0.3ポイント以上向上させる。 ----- 「1人1資格（取得）」を目指し、取組を強化する。	B	B	B 資格試験の受験者が増加し、学習に意欲的に取り組んだ生徒も多いが、一方で課題が残った。

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価		成果と課題
3 年	希望進路の実現	総合的な学習の時間を活用し、希望進路に応じた指導を推進する。 ----- 進路指導部、各教科と連携し進路実現を目指す。	B	B	進路実現に向けて積極的に取り組んだ生徒が多く見られたが、希望が実現できなかった生徒もあり、指導に課題が残った。 ----- 定着した生徒も見られたが、全員とまで行かなかった。
	身だしなみの定着	毎日の SHR を活用し、面接試験に向かう身だしなみ指導を行う。	B	B	
農場部	農場生産活動を通しての地域等との連携、授業に対する動機付け、興味付け、意識付けの強化	校外で農作物の販売の促進を行い目標生産額を達成する。 ----- 地域へ久美浜高校農場部の取組をPRする。	B	B	目標額は達成したが、新規の販路の開拓には至らなかった。 ----- 伝統を引継ぎながら隔週で土曜夜に有線放送を行った。
	農業関係諸機関・団体・地域の農業従事者との連携推進	久美浜町有線放送「みんなの農業教室」の放送を継続する。 ----- 積極的に農業関係者との交流を図る。	A	B	
福祉部	地域を支える介護人材の育成	介護福祉士国家試験受験資格の取得と介護職員基礎研修を修了させる。 ----- 目標の設定→実現への計画と実践→評価の過程を学ばせる。	B	B	自らが自己目標設定し、実現の為の具体的計画を立案し、実行し、評価することを習慣化するには至らなかった。 ----- 高校生伝統文化事業への参加は貴重な体験となり、有意義であった。
	豊かな感性と学力の向上	さまざまな体験活動を支援し感性を磨く。 ----- 家庭における学習習慣を確立させる。	B	B	
国 語	基礎力の充実と進路実現に向けた指導	進学補習や基礎学力補充を実施し、また問題集等を利用して家庭学習の定着を図る。	B	B	学年と協力し、家庭学習の定着が見られるクラスもあるが、全てのクラスに広げるには工夫が必要である。 ----- 短歌や俳句を応募し、入選者も見られた。読書活動は、感想文指導に課題が残った。
	言語活動の充実を図る取組の実施	地域の国民文化祭事業への参加を図る。 ----- 総務企画部と連携し、読書活動の推進を図る。	A	A	
地歴・公民	授業内容の精選による基礎・基本を重視した授業の展開	生徒の学力状況を把握し、他教科との連携も図りながら基礎・基本を重視した授業を展開する。	B	B	教科内での連携を重視して授業を展開した。 ----- 授業及び夏季課題等で調べ学習を行った。
	生徒の興味・関心を引き出す教材開発	視聴覚教材や実物教材、調べ学習などの開発を進め、相互の交流を図る。	B	B	
数 学	基礎的・基本的な内容の確実な定着	前年度から行っている、久美高標準テストなどを用いて学習活動の推進を図る。	B	B	2ヶ年の結果から、生徒の苦手分野や基礎学力を把握した。 ----- 研究授業週間で交流を図ったが、充実までには至らなかった。
	指導法の研究・交流の促進と教科全体の指導力の向上	教科会を充実させ、授業参観を積極的に行い、授業や指導内容の交流を行う。	B	B	

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価		成果と課題
理 科	授業に対する動機付け、興味付け、意識付けの促進	視聴覚教材やプレゼンテーションソフトを取り入れた授業展開を工夫する。 実験や実習方法の工夫と改善に努める。	B	B	視聴覚教材などの取り入れて一定の効果はあったが、教材の一層の確保と精選が課題である。燃料電池の制作など、複数の実験で身近なものを使用して工夫に努めた。
	指導力向上への取組強化	公開授業を定期的実施し、指導方法の交流を図る。	C		
保健体育	心身についての理解の促進と生涯にわたる運動への親しみの態度の育成	スポーツを通して達成感を体現させる。 計画的な研修を実施し、指導力の向上を図る。 健康的な生活習慣の確立をさせる。 部活動を活性化させる。	B C B B	B	体育的行事では達成感を味わわせることができたが、授業では課題が残った。研修を活用した指導力の向上ができなかった。 体育的行事・授業での事故防止に努めた。生徒自ら行動させることには課題が残った。
	授業や体育的行事における事故防止と安全教育の徹底	事故を防止する安全教育を徹底し、安全に対する行動力を身につけさせる。 定期的に施設設備の安全点検を実施する。 事務部と連携し、施設設備の改善に取り組む。	B A B		
芸 術	生涯にわたる芸術を愛好する心情の育成	発表の機会を積極的に設定して達成感を味わい、より良いものを創りだそうという心を育てる。	B	B	文化祭などで展示ができた。コンクールの出品は少なかった。 3学年とも、実習費や教材販売で必要なものがそろえられた。今後さらに充実したい。
	学習環境の整備	芸術科実習費や教材販売を活用して授業に必要なものをそろえる。 芸術科教員間で連携を密にする。	B B		
英 語	レシテーショングランプリ（暗唱大会）の成功	音声面の指導を充実させ、その延長線上に暗唱大会を位置付け、英文を覚える充実感、達成感を味わわせる。	A	A	昨年度より規模を拡大し、成功させることができた。 海外の交流の受け入れ先の調整ができなかった。
	国際教育の推進	コミュニケーション能力を伸ばし、海外とメールのやり取りなどの活動を行う。	C		
家 庭	一人の生活者としての自覚の保持	身近な課題を取り上げ、家庭生活への興味・関心を高める。	B	B	実際の出来事などを取り上げ授業づくりに努めた。 課題をやりきらせる指導が不十分であった。点検、返却、再提出をスムーズに行えなかった。
	家庭生活を運営していく力の向上	課題やプリント記入などやりきる指導と評価の一体化をすすめる。	C		
農 業	専門科目の授業・実習、農業クラブ活動を通しての教科指導・生徒指導の充実	将来、何らかの仕事に従事することを念頭に置き、はじめのある行動や、生産活動に望む心構え等を指導する。	B	B	統一した指導を継続実施したが、大変革とはならなかった。 希望生徒へ農業体験会を2回実施、6月梨の摘果、8月稲刈り。
	新規生産科学系列希望生徒の意識改革を行い、選択生を増やす。	1年生対象の説明会・希望生徒への農業実習体験会を実施する。	A		

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価		成果と課題
福祉	資格取得の取組を通して学力の向上を図る	授業カードを活用した主体的学習を支援する。 学習ノートを提出させ家庭学習習慣を確立させる。	B	B	2・3年生とも家庭学習の定着は質や時間の問題へと移行してきた。主体的な授業姿勢確立の指導を継続させたい。
	福祉現場実習の充実	実習担当者会議を開催し施設と学校の相互理解を深める。 巡回指導の充実と事前・事後学習の徹底を図る。	A	B	
情報	情報や情報技術を効果的に活用する能力の育成	ワードやエクセル、パワーポイントなど基本となる各ソフトの基本操作やコンピュータの適切な活用を身に付けさせる。 情報モラルの指導を徹底する。	B	B	3つのソフトの基本操作を軸に1年間取り組み、一定の成果を上げることができた。 約束・規約等が守れるよう指導を継続した。
	授業規律を高める指導の徹底	コンピュータ教室の使用上の規約の遵守、提出物の締め切りの徹底、遅刻や無断欠席、忘れ物、私語等をさせない。	A	B	
商業	パソコンやビジネスに関する基本的な知識・技能の習得	ビジネス基礎や簿記では身近な例を取り上げ、生徒に興味を持たせると同時に、理解を深めさせる。 コンピュータを用いた実習科目では、基本操作から反復して指導し、ビジネスで通用する技能を体得させる。	B	B	反復練習を数多く取り入れ、ほとんどの生徒に習得させることができた。もっと身近な題材をとりあげられたらよかった。 検定受検者が目標の約3割増を上回った。
	学習意欲を高めるための資格取得などの目的意識の設定	情報処理検定合格などの目標を提示し、合格できる力を養う。同時に目標に向かって努力することの大切さ、楽しさを実感させる。	A	B	
次年度への改善の方向性	(1) 基礎学力の充実や進学希望者の進路実現を見据えた授業改善、模試等結果分析の組織体制整備 (2) 基本的な生活習慣、家庭学習の充実に向けた家庭との連携とPTA活動の活性化 (3) 教育相談、特別支援教育の充実に向けた関係機関との連携強化や教職員研修の拡充 (4) 1年次選択科目導入による系列選択の動向確認、福祉系列平成26年度以降入学生の教育課程検討 (5) 広報のタイムリーな発進及び活動の充実				